

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立石井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 112人 国語B 112人

② 算数A 112人 算数B 112人

③ 理科 113人

5 留意事項

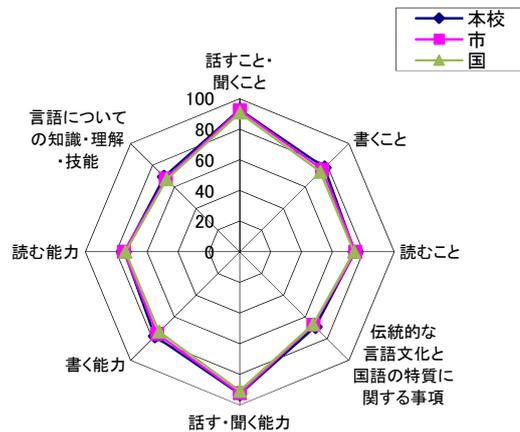
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立石井小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

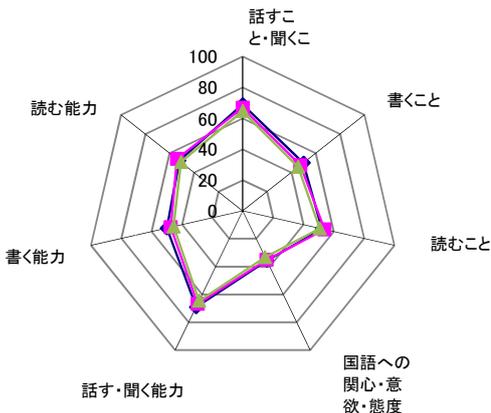
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	92.9	92.4	90.8
	書くこと	77.7	75.7	73.8
	読むこと	74.6	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.3	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	92.9	92.4	90.8
	書く能力	77.7	75.7	73.8
	読む能力	74.6	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	69.3	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	69.0	66.8	64.6
	書くこと	50.0	47.4	45.6
	読むこと	52.2	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	35.7	35.2	33.2
	話す・聞く能力	69.0	66.8	64.6
	書く能力	50.0	47.4	45.6
	読む能力	52.2	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

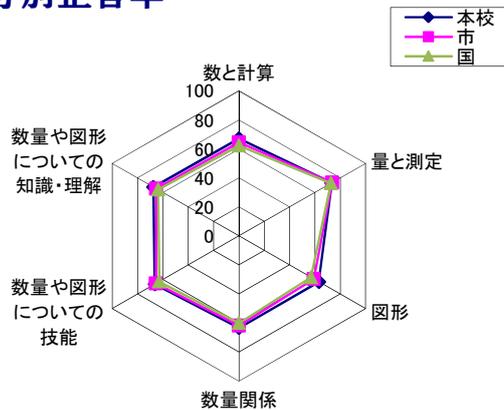
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、国語A、Bともに全国や市の平均より高い。</p> <p>○相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことができるかどうかをみる問題をよく理解している。</p> <p>○互いの立場や意図を明確にしなが、計画的に話し合うことができるかどうかをみる問題をよく理解している。</p>	<p>・スピーチなどの自分の考えをまとめて発表を行う際には、発表原稿やスピーチメモを活用して筋道を立てて話すことができるように指導を継続していく。</p> <p>・各教科や領域での話し合い活動の場を意図的に取り入れていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、国語A、Bともに全国や市の平均より高い。</p> <p>○目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えたり、内容の中心を明確にして詳しく書いたりすることに関して、適切なものを選択する問題の正答率が高い。</p> <p>●伝記の感想や目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが、決められた文字数内で文章を書くことが難しい。</p>	<p>・説明文などの学習で、文章構成に注意しながら内容を読み取る学習を継続して行う。</p> <p>・他教科等の学習や生活の場面で、いくつかの情報を関係付けて考え、それらを基に説得する活動や説明する活動を設定する。また、情報の妥当性について考える機会なども多く設け、情報を正しく有効に活用できるようにする。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、国語Aでは、全国平均よりやや高いが市の平均とほぼ同じである。また、国語Bでは、全国平均よりやや高く、市の平均より低い。</p> <p>○目的に応じて必要な情報を捉えることができるかどうかをみる問題の正答率が高い。</p> <p>●物語を読んで、登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題の正答率が低い。</p>	<p>・優れた叙述に着目して読むことや、複数の叙述を相互に関連付けながら読むことができるようにするために、ワークシートを工夫したり、感想を記入したカードやノートを活用したりする。どの叙述に着目したのかを明確にして考えをまとめることができるような指導をしていく。</p> <p>・児童の読書活動を充実させるような工夫が必要である。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、全国や市の平均より高い。</p> <p>○日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うことができるかどうかをみる問題と、文の中で漢字を正しく使うことができるかどうかをみる問題の正答率が高い。</p> <p>●相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができるかどうかをみる問題の正答率が低い。</p> <p>●文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことができるかどうかをみる問題の正答率が低い。</p>	<p>・敬語に関する正しい理解を図るとともに、日常生活で使えるように繰り返し指導していく。</p> <p>・低学年から、主語と述語を意識して話したり、読んだり書いたりすることを継続して指導していく。また、主述の関係がねじれたり、主語がはつきりなかったりする文を取り上げるなど、主語と述語の照応についての指導をしていく。</p>

宇都宮市立石井小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

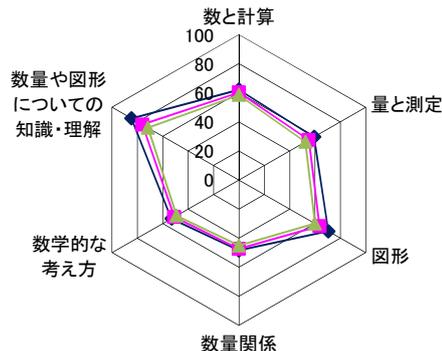
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	67.1	64.5	62.3
	量と測定	73.2	73.6	72.7
	図形	63.1	59.1	56.9
	数量関係	63.4	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	66.4	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	67.5	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	62.1	60.2	58.4
	量と測定	59.2	55.0	52.4
	図形	70.5	63.5	59.9
	数量関係	48.4	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	53.1	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	84.8	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

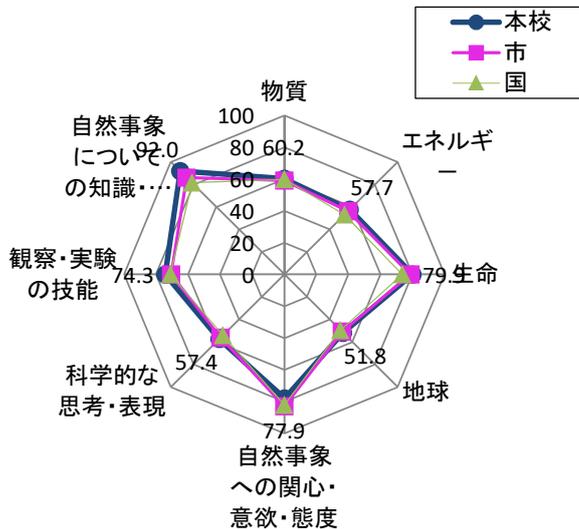
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、算数A、Bともに全国や市の平均より高い。</p> <p>○1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができている。</p> <p>●示された考えを解釈し、条件を変更した場合について考察した数量の関係を、表現方法を適用して言葉と数を用いて記述する問題の正答率が低い。</p>	<p>・他教科等の学習生活の場面で、いくつかの情報の中から数量の関係を見つけ、それらを基に算数用語を用いて論理的に説明する活動を設定する。さらに、発展的な学習を家庭学習として取り組ませ、自ら学ぼうとする意欲や態度を称賛する。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、算数Aでは、全国平均よりやや高く、市の平均とほぼ同じである。算数Bでは、全国や市の平均より高い。</p> <p>●単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解しているかどうかをみる設問の正答率がやや低い。</p> <p>○直径の長さや円周の長さの関係について理解している。</p>	<p>・生活経験をもとに話し合う算数的活動を通して、異種の2量が関係する場面でどちらか一方の数値を1にそろえ、1あたりの量で比べる考え方を指導するようにする。また、2つがどんな量であるかを明らかにし、何を表そうとしているかを明確に捉えさせる。</p>
図形	<p>平均正答率は、算数A、Bともに全国や市の平均より高い。</p> <p>●空間の中にあるものの位置を正しく書く問題の正答率が低い。</p> <p>○円周率の求め方について理解している。</p> <p>○合同な正三角形を敷き詰めた模様の中から平行四辺形などの図形を見いだすことができる。</p>	<p>・4年生で空間の位置の表し方を指導する際には、具体物を用いた活動を通して、平面上の点の位置の表し方をもとに、空間の中にある点の位置の表し方の見直しをもたせるようにする。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、算数Aでは、全国や市の平均より高い。また、算数Bでは、全国平均より高く、市の平均よりやや高い。</p> <p>●メモの情報と棒グラフを組み合わせたグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを言葉や数を用いて解答する問題の正答率が低い。</p> <p>○一つの事柄について表した棒グラフ帯グラフから読み取ることができることを適切に判断することができる。</p>	<p>・日常生活の中で主体的に問題を見い出して情報を収集し、表やグラフに表して考察したり、考察した結果から新たな問題を見い出し、さらに情報を収集し表やグラフに整理して考察するなどの活動を取り入れる。また、他教科でも、複数の観点で示された情報とグラフを関連付けて解釈し、表現する活動を積極的に取り入れていく。</p>

宇都宮市立石井小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	60.2	59.0	59.8
	エネルギー	57.7	56.4	53.1
	生命	79.9	78.6	73.6
	地球	51.8	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	77.9	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	57.4	56.1	54.1
	観察・実験の技能	74.3	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	92.0	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	<p>平均正答率は、60.1%であり、全国や市の平均と比べると、高い結果である。</p> <p>○「海水と水道水を区別するために性質を基にして明らかにすること」は、高い正答率であった。</p> <p>●「物を水に溶かしても全体の重さは変わらない」といった規則性を問われる問題や「食塩水を蒸発させても食塩は蒸発しない」ことについて実験を通して結論を記述する正答率は、低かった。</p>	<p>・主体的に問題解決を図ろうとする態度が一層養えるように、今後も、自然の事物や現象について、予想や仮説を基に解決の方法を追究していく活動を積極的に取り入れる。</p> <p>・既習した知識(以前の学年との関連)を振り返る場を意図的に設定したり、日常生活や自分が経験したことを想起させたりすることで、関心をもって実験や観察などに取り組めるように仕組むとともに、様々な現象には規則性や性質が関係していることを考察の時間において確実に押さえ、理解の定着につなげる。</p>
エネルギー	<p>平均正答率は、57.7%であり、全国や市の平均と比べると、高い結果である。</p> <p>○「乾電池のつなぎ方によって電流の向きや極が変わることを実際の回路に適用する」は、高い正答率であった。</p> <p>●「モーターを回すため太陽の位置の変化に合わせた光電池の適切な位置や向きを選ぶ」正答率は、低かった。</p>	<p>・主体的に問題解決を図ろうとする態度が一層養えるように、今後も、自然の事物や現象について、予想や仮説を基に解決の方法を追究していく活動を積極的に取り入れる。</p> <p>・実験や物づくりの活動では、目的を明確に示すとともに、実際に作った物が目的に合っているか、計測結果が正しいものになっているかを確認することができるような修正する場をしっかりと設け、対象となる事象の関係性を明らかにできるように配慮する。</p>
生命	<p>平均正答率は、79.9%であり、全国や市の平均と比べると、高い結果である。</p> <p>○「関節や堆積作用について科学的な言葉や概念を理解している」については、9割前後の高い正答率であった。理科の見方や考え方を働かせ、問題を追究する活動を通して、観察や実験などに関する基本的な知識や技能が身に付いていると考える。</p> <p>●「野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ」は、県や全国の平均よりも低い正答率であった。</p>	<p>・主体的に問題解決を図ろうとする態度が一層養えるように、今後も、自然の事物や現象について、予想や仮説を基に解決の方法を追究していく活動を積極的に取り入れる。</p> <p>・関連する既習した学習内容を確実に押さえ、関連する知識をつなげてから課題の解決に臨めるようにする。</p> <p>・学習で得た知識を実際の自然や日常生活に当てはめて用いることができるようにするために、観察や実験、資料等を活用して調べる活動を取り入れ、獲得した知識を図や模型を用いて説明したり、日常生活と関係付けて考えたりする場を設定する。</p>
地球	<p>平均正答率は、51.8%であり、全国や市の平均と比べると、高い結果である。</p> <p>○土石における堆積作用の科学的な言葉や概念についての理解は、県や全国の平均を大きく上回っている。</p> <p>●「上流の天気と下流の水の水位」との関連性を問われる問題や生活経験を実際の自然や日常生活に適用することを求める問いの正答率が低く、課題となった。</p>	<p>・主体的に問題解決を図ろうとする態度が一層養えるように、今後も、自然の事物や現象について、予想や仮説を基に解決の方法を追究していく活動を積極的に取り入れる。</p> <p>・理解している知識や提示された情報などを関連付け、多面的に捉える力が十分に身に付いていない。普段の授業で、「なぜ、そのような結果になったのか」や「なぜ、このやり方は適切ではないのか」など、知り得た結果や情報を基に、自分の言葉で説明できるような問いや場を設定していく。</p>

宇都宮市立石井小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生はあなたの良いところを認めてくれる」「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」の設問に対しての肯定的な回答の割合が高い。教師と児童、児童同士など、人間関係が良好であることがうかがえる。

●「学校の決まりを守っていますか」「毎日同じくらいの時刻に起きたり寝たりしますか」の設問に対しての肯定的な回答の割合が低い。基本的な生活習慣や規範意識に対する意識が低い児童が見られる。学級懇談などを通して、保護者の意識付けを図る。

●家庭学習の様子では、「宿題をしていますか」の肯定的な回答の割合は高いが、授業の予習復習やテスト勉強などの自主学習に取り組む割合が低い。ドリル的なスキル学習はよく行っているため、今後は自主学習の奨励に力を入れていきたい。

●読書については、「学校の読書の時間以外で読書をどれだけするか」の設問に対して、60%の児童が「30分以下」と答えており、読書量が少ない傾向にある。読書の時間や図書室の有効な活用を心掛け、読書の奨励に努めていく。

○算数については、「勉強が好き」「大切だと思う」「内容がよく分かる」「新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思う」「社会に出て役に立つと思う」など、算数に対して高い肯定率が見られた。理科についても、同様の傾向が見られた。

○「地域の行事に参加している」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えること」を問う設問に対しての肯定的な回答の割合が高い。半面、「地域社会などでのボランティア活動に参加したことがあるか」や「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり一緒に遊んだりしたことがあるか」と問う質問に対しての肯定的な回答の割合が低い。地域によって、活動に差が見られるようだ。

○「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の設問に対しての肯定的な回答の割合は81.4%で、全国平均を4.7ポイント上回っており、児童が学習に主体的に取り組んでいることがうかがえる。

宇都宮市立石井小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「石井っ子の学習」「家庭学習のすすめ」「家庭学習の進め方」を活用して家庭学習への意識の向上を図るとともに、内容や進め方等について各学級で指導している。また、学級懇談会等の話題にし、保護者の理解や協力を得られるようにしている。	6年生では、「家で学校の宿題をやっていますか」という設問に肯定的に回答した児童の割合は9割を超えている(96.5%)が、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的な回答の割合は68.1%、「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」は67.3%と7割に満たない。また、「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という設問への回答から、学年の目安の時間である1時間以上取り組んでいる児童は61.1%である。
言語活動の充実	授業の中で、協働的な学習を積極的に行い、一人一人が考えを発表し合う活動を取り入れたり、自分の考えを書く時間を確保したりしている。	6年生では、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という設問に肯定的に回答した児童の割合が79.6%で、全国平均を1.9ポイント、県平均を1.1ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において、文章中の主語と述語の関係を捉えて正しく文を書いたり、敬語を適切に使ったりする問題における正答率が、全国や県の平均よりも1～3ポイント低い。	言語事項の継続的指導	低学年から、授業の中だけでなく日常会話においても主語と述語のつながりを正しくしたり、敬語を適切に使ったりできるよう、段階的・継続的に指導していく。また、本や新聞などの活字に触れる機会を重視し、読書の奨励に努めていく。
教科に関する調査において、記述式設問における無回答率が、全国や県の平均よりも高い傾向にあり、特に字数制限のあるものにおいて顕著である。(正答率においては、全国や県の平均を上回っているものが多い。)	条件に応じて自分の考えを書く活動の充実	様々な機会を捉えて、自分の考えを端的に記述する活動や、複数の資料から目的に合った情報を抜き出してまとめたり、メモを基に文章を書いたりする活動を取り入れていく。また、自分の考えを書く際に、字数や使用しなければならない語句の条件を段階的に増やすなどの提示の仕方を工夫し、条件に合わせ、自分の考えをまとめて記述する力を養っていくようにする。さらに、始めから完璧な解答を求めず、児童に寄り添いながら思考の過程を励ますことで自信をもたせたり、友達のよい文章を提示して参考にさせたりし、諦めずに挑戦する意欲を高めるようにする。